

---

# Fairy taie 闇の滅龍魔導師

orion

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Fairy tale 闇の滅龍魔導師

### 【Nコード】

N9744X

### 【作者名】

orion

### 【あらすじ】

特に書きません最初の回で書きました。

この小説は作者の趣味です不定期更新です気長に待てる人は見て下さい。

## 第0話その一

俺は今死んだものが行く場所と現世との間の空間に神様といた。神様が言うには俺は間違っただけで死んだのだ。だからFairy taleの世界に行かせてもらえるそうだ。願いを四つかなえさせてくれて俺は

一つ目、身体能力がMAX説明具体的に言うと走れば瞬間移動に見える殴れば拳圧で軽く家が吹っ飛ぶ

二つ目、俺が知っている小説、マンガ、アニメの中の能力、魔法、特技、スキル等を使える

三つめ、武器、防具、アクセサリーの創造

四つ目、ドラゴンに拾われ滅龍魔導師になる

というチートな願いをして旅だった。

## 第0話その2

俺は、今一人の龍がその気高すぎず賢く生物の絶対王者ドラゴンの  
長き生涯の最後の姿を見届けていいる一人だ。他には仲良しだった  
ドラゴンが数匹とこの賢龍 デイアボロスが君臨していた森の動物  
たちが心配そうに見守っていたその時デイアボロスが弱弱い声で  
「お前に教える事わない息子よヒューー

私がいなくなったら皮をはぎ爪や牙をとりローブと長いズボンを作  
れこれで私の加護がお前にかかるだろう、そして鱗を一枚剥ぎ取っ  
てお守りにしてくれ。ときどき思い出してくれよな。ヒューー」

「そんなこと言うなよ！いつまでも忘れないさ」

「そうか、それはよかった」

目をつむり、口元が緩んだそして息をしなくなった。今龍の王、闇  
龍 デイアボロスが死んだ。

その生涯約一千年以上全長百メートル余り、体重一ト破壊の権化と  
された賢龍が死んだ。

龍たちは、最大級の咆哮と涙を流し、獣たちは最大級の敬礼とお辞  
儀をした。息子話叫んだ。

「父さんんんんんんんんん」

森が揺れた、大気は震え、大地は森と共振したこの事人間は知り得  
ないだろう気高き龍の王が命を落とした日を皆 ノステンダルの  
森災害 と呼んだ息子は父に言われたと通りにローブとズボンを作  
った。

「父さんのおいがする」

父さんが生前言っていてことを思い出した

『私はもう長くはない私が死んでもし困ったことがあったら、妖精  
の尻尾というギルドに行きなさい。あそこは良いところだぞつい先  
日も人間に化けて行ってみたら活気があってとても楽しそうだった。  
お前と同じくらいの子もいたようだからな』

そうだ、妖精の尻尾に行こう。  
父さん行くよ、父さんが話していたギルドへ

## 第一話

「今日も疲れるな、ライル」

「フン、お前が遊びながらやっているからだ」

ライルはハッピーと同じネコだ。

俺は今S級魔導師をやっている。ギルド入会した初日にナツ、グレ  
イ、エルザ、ラクサス、ミラ、ミストガンを倒してしまい毎日クエ  
ストをこなしていたら進級試験に呼ばれ合格をしたからだ。（聖十  
魔導師も）

あ、今原作で言うところルシーがギルドに入る前日だ。

俺は今日とk¥明日はS級クエストの受けて活火山の調査をしてい  
る特に異常は見当たらないがもう一回見まわる！！あれは親父の葬  
式に参加していたたしか・・・イグニール

「イグニール」

『お前はディアボロスの育てた子ではないか』

「ああ」

『我の息子はどうしている？』

「げんきだよ、町を半壊させる程にね」

『はあ・・・我に会ったことは言わないでくれ本来人間とドラゴン  
は干渉してはいけないのだ』

「はいはい、あっそうだ最近、火山の魔物が騒がしいんだけど知ら  
ないか？」

『それは私が出かけていたからだ明日には治まる』

「なんだ調査するほどのものじゃないんじゃん」

俺は依頼主に嘘の報告をして帰っていった

これでルシーと会えるかな？

翌日

「なあ、ギル明日いつしよにイグニール探しに行かねえか」  
「ああ、いいぞ」

このイベントキタあ

「あら珍しいのねめんどくさがり屋のギルが行くなんて」

「ミラなんならお前も行くか？」

「遠慮しとくわ、けがしそうだから」

そうか、と言つて頭をなでた

「もう、子どもじゃないんだからやめてよ／＼」

「ん、そうか悪かったな」

「もう、悪いなんて思つてない癖に」

ふふ、わかつてるつもりさとは声にださない

「ナツ俺は寝るぞつかれたミラ報酬」

「はい」

「おう」

「さっきから俺を無視するなーーーーー」

「スマンライル」

報酬を受け取り

「じゃあな、ナツ、ミラ」

## 主人公設定

名前ギル・ドラグニル

魔法

滅龍魔法

その他多数

称号S級魔導師

滅龍魔導師

聖十大魔道

ギルド 妖精の尻尾

所持金？

武器 ソウルイーター 魂喰らい（太刀）特殊効果その名の通り魂だけを刈り取り肉体は傷つかない攻撃範囲は魂の強さ・量によって決まる（魂とは生命力の俗称なくなると死ぬ）

精霊の霊銃 三連式の銃特殊効果魔力を込める事によって広範囲に強力な攻撃ができる

防具 黒いロングコート 素材闇龍の毛皮 闇龍の剛毛 闇龍の鱗

特殊効果すべての魔法効果半減

黒いシャツ 素材布

白いズボン 素材 オリハルコンを編みこんだ布重三

トン

重り×十 素材 精霊金属 重さ一つ三百キロ

特殊効果三百キロにつき魔法威力が二分の一



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9744x/>

---

Fairy taie 闇の滅龍魔導師

2011年11月11日02時16分発行